

令和元年度 35人以下学級状況調査

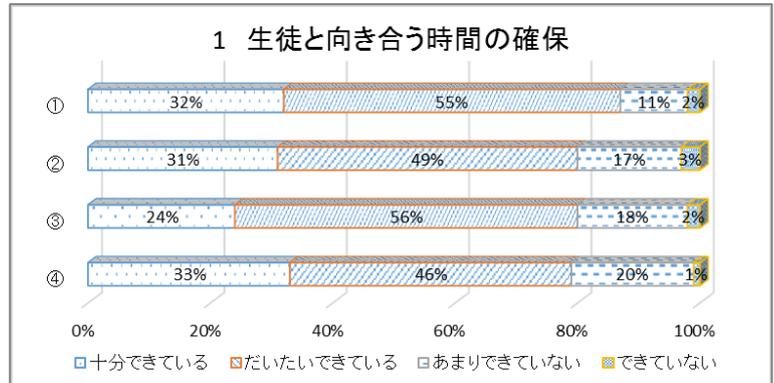
集計日：令和元年8月26日

調査対象：平成30年度に36人以上の学級担任を務め、令和元年度も通常学級担任を務めている教諭（101名）

回答者数：93名

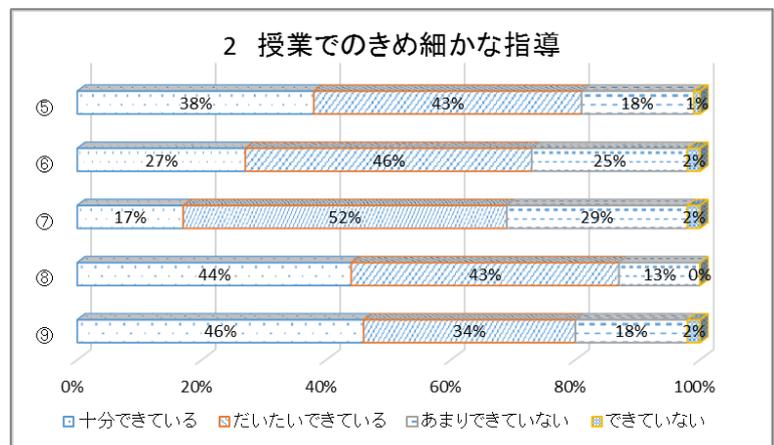
1 生徒と向き合う時間の確保

- ① 生徒と向き合う時間が確保ができる、できることが増えた。
- ② 生徒の指導に専念できる、専念できるようになってきた。
- ③ 生徒との関係がより緊密である、緊密になってきた。
- ④ 生徒が教師に話しかけることが増えた、増えてきた。



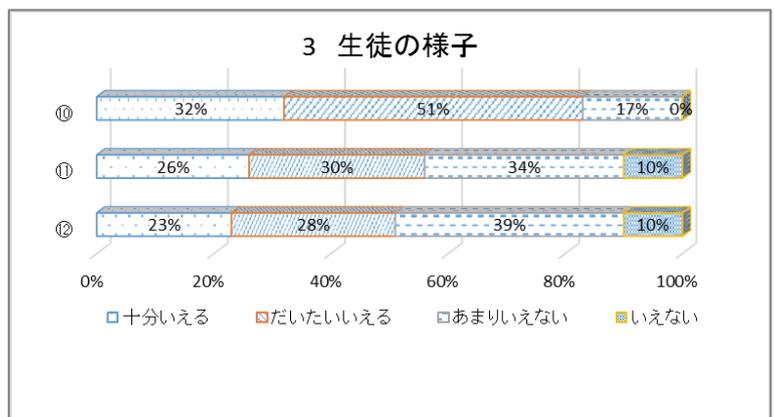
2 授業でのきめ細かな指導

- ⑤ 理解度や興味・関心に応じたきめ細かな指導ができる、できることが増えた。
- ⑥ 生徒の発言・発表機会が増え、授業参加がより積極的である、積極的になってきた。
- ⑦ 生徒の理解力が高まり、学力向上が見られる、見られてきた。
- ⑧ 生徒の学習上のつまづきを見つけやすい。
- ⑨ 生徒の提出物を丁寧にみることができる。



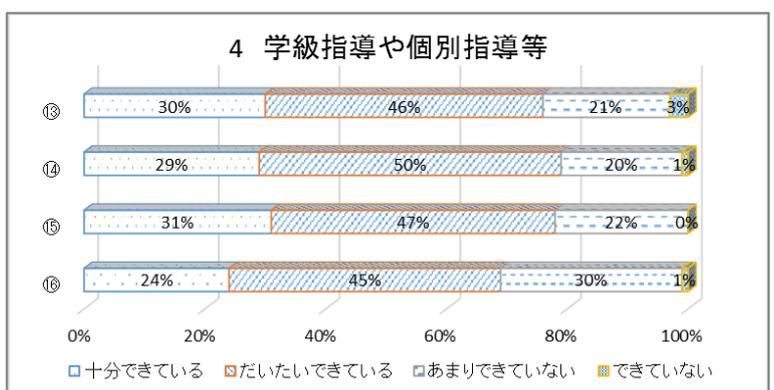
3 生徒の様子

- ⑩ 学級の中で、生徒の活躍する場面が増えた、多くなった。
- ⑪ 生徒指導上の問題やトラブル等が減少した、その傾向が見られた。
- ⑫ 不登校や欠席率が低下した、その傾向が見られた。



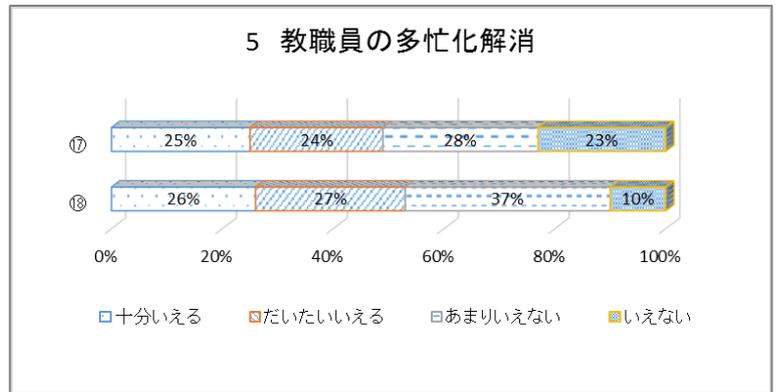
4 学級指導や個別指導等

- ⑬ 学級指導にゆとりが生じ、より効果的な、または余裕をもった指導ができる、できるようになった。
- ⑭ 生徒一人ひとりにきめ細かく対応できる、対応できるようになってきた。
- ⑮ 生徒指導上の課題に即した個別指導ができる、できるようになってきた。
- ⑯ 保護者との連携が深まった、深まってきた。



5 教職員の多忙化解消

- ⑰ 昨年度の4～7月と比較し、今年度同時期の在校時間が短くなった。
- ⑱ 学級担任業務に要する時間が短くなった。



6 35人以下学級について、調査項目以外で変化が見られたことや、お気づきのことがあれば御記入ください。

- ・ 二者面談、三者面談の実施について、余裕を持って計画できた。学級担任として、毎日の提出物(連絡帳等)についてコメントを書く余裕ができた。生徒理解のために、生徒の様子を日々捉えていて指導に生かすことができる。教材研究で、人数分の材料の準備時間が短くなった。教科指導で、一斉指導もしやすくなったが、グループ学習の際、班の数が減ったため指導しやすくなった。
- ・ 実験等で、多くの生徒に作業させる場合、35人以下学級のほうが一人一人の生徒に多くの機会を与えることができる。また、毎日のノートチェックや成績表の作成にかかる時間も短縮されるため、一人一人の生徒と向き合う時間が増えると思う。
- ・ 昨年度に比べ、様々な面でゆとりが生まれた。生活点検表なども以前より負担が減り、担任が書くコメントの文字数も増やすことができている。少子化の影響で手を掛けられてきた生徒が多く、学校でも同様に手を掛けなくてはいけない。言い換えれば、手が掛かる生徒が多くなってきた今、35人以下学級を是非続けてほしい。
- ・ 昨年度3年生、今年度1年生なので単純比較はできないが、生徒一人一人と向き合う時間は増えたようだ。在校時間などに直結しているとは思わないが、それは生徒一人一人のことを考える時間が増えたからだと思う。今後も35人学級の維持をお願いしたい。
- ・ 28人学級の担任から、翌年37人学級の担任になったときは、通信表の所見を書く際にたいへん苦勞した。教室では、ロッカーに置ききれない荷物は机横のフックに掛けてあり、机間指導もしにくい状態だった。3年生になると体も大きくなり、余計に狭く感じた。28人学級だとどんなに楽かと何度も考えた。ぜひ35人以下学級が継続することを願う。
- ・ 毎時間実施する単語テストの採点が短時間でできるようになり、間違いに対してコメントを書くことが増えた。
- ・ 昨年度は3年生39名の担任だった。体が大きいこともあり、教室は窮屈だった。生徒が多いほど、おとなしい生徒との関わりが持ちづらく、その分一人一人と関われる時間は短くなると感じた。
- ・ 教室内にゆとりがあり、グループをすばやくつくりやすい。机間を通りやすいため、授業中一人一人に声が掛けやすい。
- ・ 個人の掲示物を充実させることができた。
- ・ 通信表の評価や所見において、絶対数が少ないことはプラスに働く。学習に関してや生徒との関わりは、人数より関わり方のほうが大きいと思う。
- ・ 異動で学校が変わったので、単純比較はできないが、提出物や生活ノート等の点検がしやすくなった。それを元に声掛けをすることが増えた。多忙化については、担任業務をどこまで行うかによって、前の学校より忙しいと感じたり、楽になったと感じたりすると思う。担任一人ではなく、複数が担任業務を行えるようになれば、少しは身体的・心理的に楽になると思う。
- ・ 4月は学級開きの大切な時期であるが、保健関係の書類等提出物が多い時期でもある。担任がすべき業務が大幅に減り、生徒に向き合う時間は間違いなく増え、良好な関係を築くことができた。しかし、35人ではまだ人数が多いと感じる。25～30人学級の実現を希望する。昨今の教育事情(いじめ、生徒や保護者のニーズの多様化)や教員の長時間勤務を考えると、解決策は教員の増員である。各クラスに必ず副担任を置くなど、大胆な変化が必要だと感じる。

- ・ 通信表の個人所見を書く時間が少し減った。しかし、道徳の所見も書かなくてはならないので、負担も増えた。
- ・ 生徒一人一人が見やすくなった。しかし、調査や文書が増え、業務の負担が減ったとは感じない。
- ・ 人数が減った分、各種書類の作成に要する時間が減り、以前よりも他の部分に使う時間が少し増えたが、まだまだ多忙は解消されない。
- ・ 配当教員が増えたことで、業務が遂行しやすく、感謝している。ただ、個別に丁寧な指導を行うには、まだまだ多忙感が残る。今後とも多忙緩和ときめ細かな指導機会の充実のためにご高配いただきたい。
- ・ 学年に配置される教員数が増えることはありがたい。しかし、それでもまだまだ手が回らないと感じている。
- ・ 生徒数が2人しか変わらないため、昨年度と比べあまり変わらないのが実際のところだ。今年度の方が不登校生徒の数や生徒指導の発生件数が多いからだと思う。しかし、40人学級より35人学級のほうが生徒と向き合う時間や業務量の軽減に大変有効だと感じている。
- ・ 人数減少は非常にありがたいが、業務上大きな変化は感じられない。年度末業務作業においては大きな効果があると感じる。
- ・ 提出物などを以前より決め細やかにコメントなどのフィードバックを返せる点、学級経営において一人一人の活躍の場を与えられるメリットを感じている。しかし、勤務時間の短縮とまではいかず、業務内容の精選・切り分けを行わない限り、多忙化解消にはつながらないと感じる。
- ・ 学級の生徒数減はメリットが多いので大変良いこととは思いますが、授業時数や部活動等、他の課題が改善されないと、アンケート項目に挙がっていることが根本からは改善されないのではないかと考える。
- ・ 今年度は学級の人数が減ったものの、生徒指導面で問題が多い。
- ・ 35人学級となっても、まだまだ業務に追われている。生徒と向き合おうと思うと、授業や部活動、行事の準備、保護者対応等を時間外に行わなければならない。まだまだ改善の余地があり、検討を求める。
- ・ 勤務校が変わったため比較は難しい。
- ・ 昨年度3年生、今年度1年生なので、学級担任としての業務内容や、生徒の抱える問題が異なり、単純に人数の違いによる教育効果の有無を測れない。
- ・ 昨年度と人数がほとんど変わっていないため実感がない。3年生担任から1年生担任になった場合、最初のケアはむしろ時間がかかる。3年生はそれまでのレポートができていればしっかりと見ることができる。1年生は小学校の問題を抱えたままであったり、他校から入学した生徒との意思疎通がうまくできなかつたり、かえて手間がかかる現状である。1年生に関しては理想は30人だと思う。
- ・ 昨年との変化は特に感じない。学校に慣れ落ち着いた3年生と、初めて中学校に入学した1年生では、2人ほどの変化では何も変わらない。35人の1年生のほうが、様々な対応のため時間を要している。複数の小学校から入学した生徒たちへのきめ細かな指導を考えると、更に少人数でしっかりと目を配りながら中学校生活への不安解消や馴染んでいく時間を十分に取れると思う。
- ・ 昨年度の学級と今年度の学級は付き合いの長さが違うので比べられない。違いは人数の問題ではなく、学年の違いだ。
- ・ 人数が6名違うことで、物理的な作業に余裕はできたが、それがイコール指導の余裕になるかということは難しい。生徒の様子にもよると思う。
- ・ 問12について、不登校や欠席が学級に原因があるとは限らないのに、このような質問が入っていることは疑問だ。